

# 健幸都市くさつの推進に向けて

～草津市健幸都市基本計画の  
平成30年度・令和元年度の主な取組について～

令和元年8月26日  
健康福祉政策課



# 草津市健幸都市宣言および草津市健幸都市基本計画の策定について

本市では、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」を行い、だれもが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる健幸都市づくりを推進するため平成29年3月に、「草津市健幸都市基本計画」を策定いたしました。

## 草津市健幸都市宣言

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること

これはわたしたち共通の願いです

心身の健康には 自分の状態を知ること 適度な運動と休養

バランスのとれた食事など 一人ひとりの取組が大切です

美しい自然や 住みやすい都市環境も大切です

そして ともに住む人と人との絆や協働も大切です

くさつは いにしえから 東海道と中山道がまじわる交通の要衝

宿場町として栄えてきました

人と人が出会い 心と体を休め 旅の疲れを癒してきました

琵琶湖・田園などの豊かな自然環境もあり

そこから得られる 恵みも豊富です

今を生きるわたしたちも この地で 出会いと自然に感謝しながら

住み続け 訪れることで 健幸になれるまちを

ともに創造していきましょう

草津市は 生涯にわたって 一人ひとりが自らの健康を大切にし

ともに支え合い ここに暮らすことによって

絆や喜びが生まれ 幸せが感じられる

笑顔あふれるまちを目指して

ここに「健幸都市くさつ」を宣言します。

平成28年8月28日 草津市長 橋川 渉

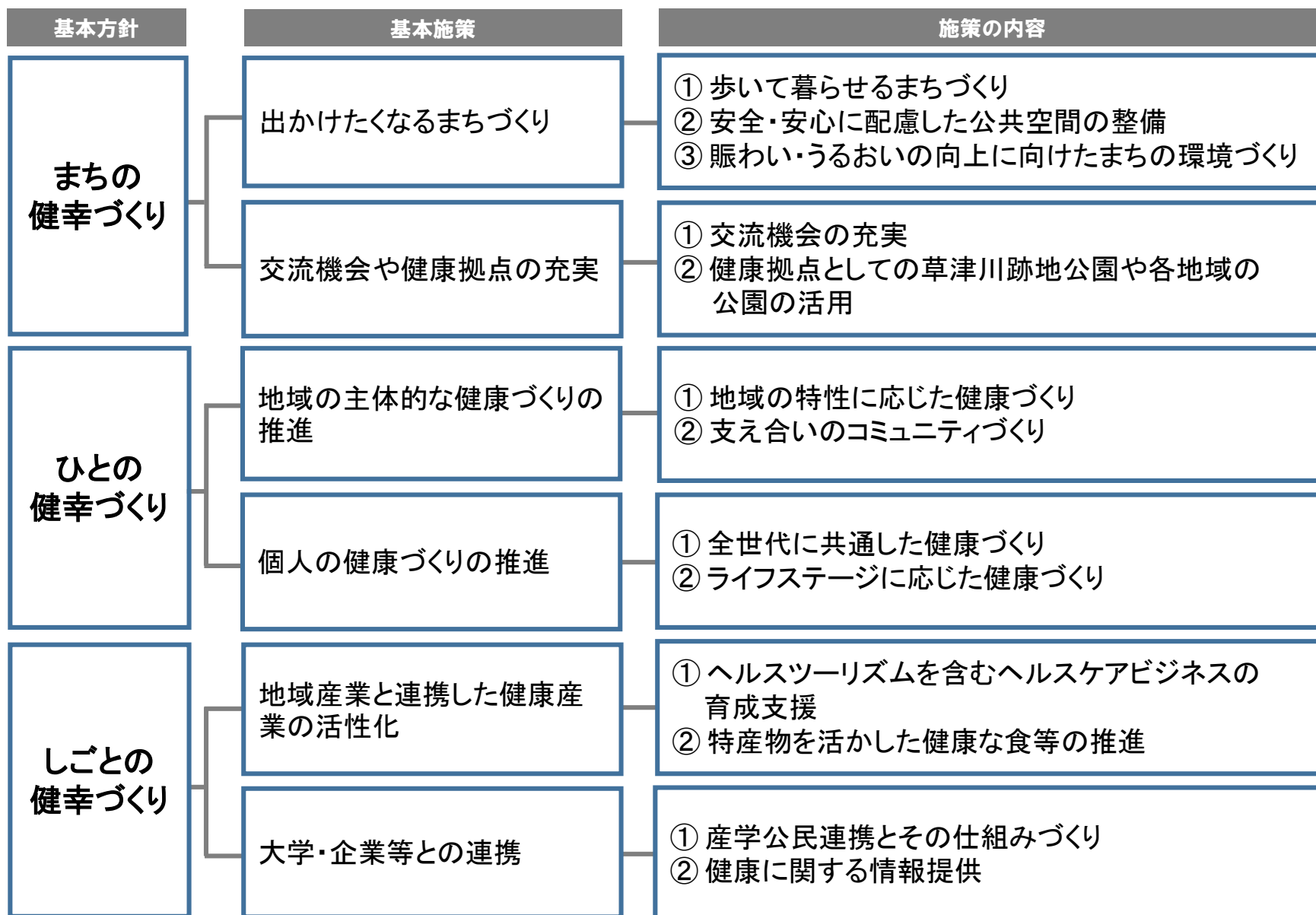
## 草津市健幸都市基本計画

- 「第5次草津市総合計画」を上位計画とし各種関連計画との整合を図りながら、市の様々な関連計画を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化していく計画です。

- 「草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、本計画においても「まち」「ひと」「しごと」を切り口に、健幸づくりの取組を定めています。
- 計画期間は、平成29年度から令和4年度までの6年間です。



# 健幸都市基本計画の体系



# 草津市健幸都市基本計画

## 基本施策 基本方針

### 《まちの健幸づくり》

- (1) 出かけたくなるまちづくり
- (2) 交流機会や健康拠点の充実

### 《ひとの健幸づくり》

- (1) 地域の主体的な健康づくりの推進
- (2) 個人の健康づくりの推進

### 《しごとの健幸づくり》

- (1) 地域産業と連携した健康産業の活性化
- (2) 大学・企業等との連携

## 各施策ごとの主な重点取組と進捗状況

#### ①コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定

⇒草津市立地適正化計画、草津市版地域再生計画、草津市地域公共交通網形成計画を策定(H30)

#### ②自転車道のネットワーク化や安全利用の取組の推進

⇒街頭啓発・指導やスケアードストリート方式による教室の開催等(H29・H30)

#### ③ガーデンシティくさつの推進

⇒市内ガーデニングサークルへの支援(H29・H30)

#### ④(仮称)市民総合交流センターの整備

⇒事業用地の取得及び整備を行う民間事業者の選定(H29)、民間事業者による設計等を実施(H30)

#### ⑤草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施

⇒草津川跡地公園で健幸フェア・健幸ウォークを実施(H29・H30) など

#### ①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進

⇒地区別の健康データの分析を実施(H30)

#### ②くさつ健幸ポイント制度

⇒1,512人(H30)  
(紙版および健康推進アプリ「BIWA-TEKU」)

#### ③地域包括ケアシステムの推進

⇒在宅医療・介護連携の推進、認知症に関する啓発、介護予防・日常生活支援サービス事業、助け合い・支え合いの地域づくり活動の充実等を展開(H29・H30)

#### ④高齢者の社会参加・生涯活躍社会の構築に向けた取組の推進

⇒啓発リーフレットを作成・配布 など

#### ①ヘルスツーリズムの開発

⇒開発に向けたワークショップやモニターツアーを実施(H29・H30)

#### ②草津ブランドの構築・PR

⇒草津野菜マルシェ等のイベントにおけるPRを展開(H29・H30)

#### ③企業版健幸宣言の推進と企業連携

⇒健幸都市宣言賛同事業所数：191団体(R元年7月現在)

#### ④アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用

⇒健幸都市づくりに関係するテーマについてのセミナー等および社会実験事前調査事業を実施(H29・H30)

#### ⑤健幸都市くさつの啓発

⇒シンポジウムや健幸フェア等のイベントを実施(H29・H30) など

## まちの健幸づくり

従来からの健康施策の枠組みを超え、ハード面からも健康づくりに取り組みます。

## 出かけたくなるまちづくり

## ① 歩いて暮らせるまちづくり

都市機能や交通網を整えて、コンパクトシティ・プラス・ネットワークを形成し、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

- ・ 自動車の過度な利用を減らし、健康づくりにつながる徒歩や公共交通による移動を増やす。
- ・ 自動車への過度な依存は、交通渋滞を招き、公共交通の利便性の低下や衰退にもつながることから、地域の特性に応じた持続可能な公共交通ネットワークを再編する。
- ・ 生活の利便性が高い住みよいまちづくりにつながる都市機能のマネジメントなど、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方も踏まえたまちづくりを進める。

## ② 安全・安心に配慮した公共空間の整備

安全・安心に配慮した公共空間の整備を進めるため、バリアフリー化やたばこ対策の推進、安全な自転車道の整備等を進めます。

- ・ 「草津市バリアフリー基本構想」を計画的に推進する。
- ・ 受動喫煙防止対策について、国における検討状況も踏まえつつ、草津市内において更に取組を推進する。
- ・ 健康につながる自転車の利用を進めるために、自転車の安全で安心な利用の周知・啓発や、自転車の走行空間の整備を計画的に進める。

## ③ 賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり

店舗誘致やまちの緑化、郊外部における地域の産業・資源を活かした取組の推進等を中心に、賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくりを目指します。

- ・ 出かけたくなるまちづくりを推進するために、地域の特性も活かした賑わいの向上に向けた取組を更に進める。
- ・ みどりを保全、継承し、市民との協働により、みどりのまちづくりを支えながら、都市を彩るみどりを持続する。
- ・ 郊外部における生活サービス機能の維持・向上や交通ネットワークによる利便性の向上、地域産業の振興等を図る。

## まちの健幸づくり

従来からの健康施策の枠組みを超え、ハード面からも健康づくりに取り組みます。

### 交流機会や健康拠点の充実

#### ① 交流機会の充実

交流施設の活用や様々なイベントの開催により、交流機会の充実を目指します。

- ・ イベントの開催も含め、出かける機会や交流機会を増やす。
- ・ 様々な施設を活用し、交流拠点を増やす。

#### ② 健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用

子どもから高齢者まで、誰もがいつでも気軽に訪れ、健康づくりを行うことができる拠点として、草津川跡地公園や各地域の公園の活用を進めます。

- ・ 草津川跡地公園については、誰もが健康拠点としても活用できるように、イベントの開催を含め活用方策の検討を進める。
- ・ 各地域の公園については、ニーズの多様化への対応を行う。



# 《まちの健幸づくり》重点的な取組①

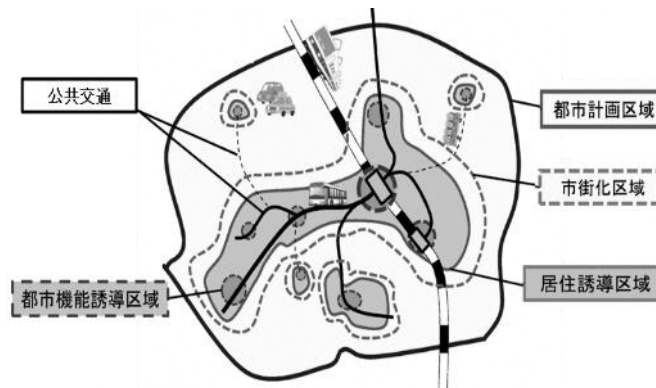
## コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定 【都市計画課・交通政策課】

(歩いて暮らせるまちづくり)

全国では、高齢化・人口減少が進む中で、地域活力の維持や医療・福祉・商業等の生活機能の確保を行うとともに、みんなが安心して暮らせるよう、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」が進められています。

本市においても、日常生活が充足できる居住環境や、都市機能を確保できるよう、将来を見据えた都市機能をマネジメントします。

※ 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」イメージ



H 30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『草津市立地適正化計画』および『草津市地域公共交通網形成計画』を策定し、平成30年10月に公表しました。</li> <li>○ 計画公表後、居住および都市機能の誘導に関する届出制度の運用を開始しました。</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりに向けた計画である『草津市立地適正化計画』および『草津市地域公共交通網形成計画』を公表することができ、「歩いて暮らせるまちづくり」に寄与しました。</li> <li>○ 『草津市立地適正化計画』で定める誘導区域へ、住民および対象施設を誘導する手法として、届出制度の運用を開始しました。</li> <li>○ 区域への誘導をはかる届出制度を事業者等へ周知することが重要です。</li> <li>○ 将来を見据えた持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、『草津市地域公共交通網形成計画』の施策展開の検討に取り組みました。</li> <li>○ 市民(地域)・事業者・行政の三者の協働・強化連携を図りながら、持続可能な公共交通ネットワークを構築し、地域活力の維持・活性化を図る必要があります。</li> </ul>
R 1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた『草津市立地適正化計画』およびまちづくりの実現に向けた届出制度について、引き続き周知していきます。</li> <li>○ 草津市地域公共交通網形成計画に基づき、各学区の地域の特性に応じた具体的な施策の検討や、各個別施策の実施に向けた対応を行います。</li> </ul>

# 《まちの健幸づくり》重点的な取組②

## 自転車道のネットワーク化や安全利用の取組の推進【交通政策課・道路課】

(安全・安心に配慮した公共空間の整備)

自転車道のネットワーク化や、歩行者・自転車の区分明示を更に進め、環境や健康に優しい自転車の安全で安心な利用を促進します。

H30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自転車安全安心利用指導員による市内一円での街頭啓発、街頭指導等を実施しました。草津中学校・新堂中学校・志津学区においてスクエアドストレート方式による教室を開催しました。高齢者等を対象にした出前講座方式による自転車安全安心利用教室も開催しました。※スクエアドストレート方式による教室・・・スタントマンによる自転車と自動車の事故を再現し、事故の怖さを実感させ、交通ルールを守る大切さや無謀な運転の危険性を学んでいただく教室</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成30年度に中学生のヘルメット着用義務化が実施され、自転車の利用機会が特に多い中学生を対象に自転車の安全安心利用の啓発を促進しました。今後も自転車の安全利用を促進するために、継続的に街頭啓発、街頭指導、また自転車安全安心利用教室を実施する必要があります。</li> </ul>
R1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自転車安全安心利用指導員による市内一円での街頭啓発、街頭指導等を実施します。また、自転車の利用機会が特に多い中学生などを対象にした各種自転車安全安心利用教室の開催や、高齢者等を対象にした出前講座方式による自転車安全安心利用教室を開催します。</li> <li>○ 自転車の安全で安心な利用環境を創出するため、自転車ネットワーク計画について各関係部局と協議し、今後の整備等について検討をします。</li> </ul>

## ガーデンシティくさつの推進【草津川跡地整備課・公園緑地課】

(賑わい・うるおいの向上に向けたまちの環境づくり)

民間ボランティア団体であるガーデニングサークルの活動を支援し、JR草津駅、南草津駅前の公共空間のガーデニングを継続するとともに、草津川跡地公園の公共空間においてもガーデニングの取組を広げます。



H30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 延べ約1,000人の人が草津川跡地公園や草津駅・南草津駅のガーデニング活動を行いました。</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定例の活動以外にも、シーズンごとに合わせた活動を行うとともに、新たにガーデニング教室を6回行い、交流やスキルアップの場を設け、幅広い年齢層の方々によるde愛ひろば(草津川跡地公園区間5)のガーデニング活動を推進することができました。次年度以降もガーデニング活動を推進する必要があります。</li> <li>○ ガーデニング活動により、草津駅前・南草津駅前および草津川跡地公園が季節の花で彩られ、まちを歩く人や草津を訪れる人々に憩いの空間を提供できました。また、ガーデニングを通じた活動により、新たなコミュニティが形成されつつあります。</li> </ul>
R1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 草津川跡地公園、草津駅・南草津駅前のガーデニング活動、スキルアップ講座等を行い、新たな仲間を募り活動の輪を広げます。</li> </ul>



# 《まちの健幸づくり》重点的な取組③

## (仮称)市民総合交流センターの整備 【まちづくり協働課】

(交流機会の充実)

草津駅周辺には、公共施設が独立して点在しているものの、各施設の老朽化は著しく、耐震補強等の改修工事が必要であることから、公共施設の機能集積を基本として、「中心市街地活性化のコア施設」を建設します。

中心市街地に人、モノ、情報が交流する施設整備を進め、地域の振興やまちの賑わいを創出するとともに、「子育て支援のための空間」や「多世代交流のための空間」等の新たな機能も加えて、全世代が集い、創出的で多様な活動を展開できる魅力ある都市福利施設を目指します。



H 30	実績	○ 平成29年度に優先交渉権者として決定した民間事業者と平成30年9月に事業契約を締結しました。また、関係者と協議・調整を行い、民間事業者による設計業務を3月末までに完了しました。
	評価・課題	○ 優先交渉権者と必要な調整を行い、事業契約を締結しました。事業契約締結後、民間事業者や入居関係団体等と協議・調整を行い、建物の工事に必要となる設計業務を完了しました。 ○ 完成後の施設について、民間事業者や入居関係団体等と協議を行い、施設の運営方法や建物の維持管理方法を決定する必要があります。
R 1	計画	○ 関係者と協議・調整を行い、民間事業者による工事を推進し、事業の進捗を図ります。完成後の施設運営・維持管理についての検討を進めます。

# 《まちの健幸づくり》重点的な取組④

## 草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施

【健康福祉政策課・都市再生課】

(健康拠点としての草津川跡地公園や各地域の公園の活用)

草津川跡地公園等を活用したノルディックウォーキングを含むウォーキング等のイベントの実施を検討し、草津川跡地公園が、普段使いの身近な健康拠点となるような取組を進めます。

H 30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 4/7～14ピクニックウィーク(来場者数:約2,700人) ハンモックや卓球台、大きな積み木など、公園内で使える遊具や、ベンチやカウンターテーブルを設置することで人が集い、春の公園を楽しめるイベントを行いました。</li> <li>○ 7/21わくわくサマーランド(来場者数:約2,500人) ウォータースライダーや泡バブル砲などの水を使ったエア遊具を設置するとともに、賞品があたるスタンプラリーを実施するなど、夏の公園を楽しめるイベントを行いました。</li> <li>○ 10/20 星降る映画館(来場者数:約2,400人) 子ども向けと大人・子ども向けの映画各1本の野外上映会を行いました。</li> <li>○ 11/10健幸フェア(来場者数:約1,500人) 健幸をテーマにしたイベント。協定締結企業であるNTT西日本による企業による「みらいパーク」、ブース出店(体力測定・サンプル配布等)、ステージでの啓発ショーや体操、青空ヨガなどの催しを行いました。(くさつ健幸ウォーク2018と同時開催)</li> <li>○ 3/21 くさつサイクルフェスタ(来場者数:約4,000人) 初心者向けの自転車教室やくさつ発見サイクリング、マルシェ&amp;キッチンカー、スポーツサイクル体験試乗会など自転車を使ったイベントを開催しました。</li> <li>○ 3/23 アウトドアフェス(来場者数:約2,600人) アスレチックジムの設置、カヤックの体験教室、キャンプ用品やアウトドア用品の展示・販売を行いました。</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各イベントとも、多数の来場者へ健幸都市づくりを啓発することができました。子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただき、様々なメニューのなかで、楽しく健康について学び、理解を深めることができました。また、これらのイベントにより中心市街地のにぎわいが創出されたとともに、健幸に対する機運の向上にも寄与したものと考えています。</li> <li>○ 引き続き、健康づくりのきっかけとなるようなイベントを開催する必要があります。</li> </ul>
R1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 草津川跡地公園を活用して、以下のイベントを開催します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4/4～7 ピクニックウィーク</li> <li>・ 9/28 健幸フェア</li> <li>・ 10/19 星降る映画館</li> <li>・ 3/20 くさつサイクルフェスタ</li> <li>・ 3/21 コーヒーイベント</li> </ul> </li> </ul>



アウトドアフェス



健幸フェア

## ひとの健幸づくり

地域と個人の視点から、健康づくりに取り組みます。

### 地域の主体的な健康づくりの推進

#### ① 地域の特性に応じた健康づくり

まちづくり協議会の健幸宣言の実現に向け、各まちづくり協議会と市が協働して、地域の実情に応じた健康づくりの取組を進めます。

- ・ 地域における健康づくりをより効果的に行っていくために、地域ごとの健康特性等を理解し、それに応じた取組を更に進めていく。
- ・ 地域と行政が協働して取組を進めていくため、市は更なる支援方策について検討を行う。
- ・ より地域の実情を捉えた健康づくりを推進するために、地域ごとの分析や草津市国民健康保険加入者以外も含めたデータ分析を行う。

#### ② 支え合いのコミュニティづくり

誰もが住み慣れた地域や家庭で、安心して暮らすことができる「地域包括ケアシステム」の構築を進めるとともに、地域の資源や人材を活かし、地域の課題を解決できる仲間づくりを支援します。

- ・ 社会的なつながりの希薄化や更なる高齢化の進展が想定される中で、社会参加と介護予防効果の関係が指摘されていることも踏まえ、誰もが住み慣れたまちで安心して暮らすことができるよう、支え合いのコミュニティづくりの取組を更に進めていく。



## ひとの健幸づくり

地域と個人の視点から、健康づくりに取り組みます。

### 個人の健康づくりの推進

#### ① 全世代に共通した健康づくり

健康くさつ21に基づく取組を計画的に推進するとともに、まちやしごとの健幸づくりの取組との連携を進めます。また、こころの健康づくりを強化する観点からも、多様化、複雑化する福祉の相談などに対応できる総合的な相談体制を検討します。そして、健康づくりに取り組むきっかけづくりを更に進めます。

- ・ 「健康くさつ21」や「草津市スポーツ推進計画」について、今後もPDCAサイクルに沿って計画的に取組を進めるとともに、まちの健幸づくりやしごとの健幸づくりとも連携した取組を進める。
- ・ 多様化・複雑化する福祉に関するニーズに対応する。
- ・ 健康づくりのきっかけづくりについて、健幸ポイント制度の実施状況も踏まえつつ、更なる動機づけにつながるよう検討する。
- ・ ウォーキング等の有酸素性運動や、健康バンド、いきいき百歳体操などの筋力の維持・増強につながる運動の普及を図る。
- ・ 個人の健康な暮らしの基礎となる住まいの質の向上について検討する。
- ・ 食事の大切さや野菜の摂取の啓発に取り組む。

#### ② ライフステージに応じた健康づくり

ライフステージごとの特徴や課題を踏まえた取組を進めます。

特に企業や保険者と連携した働く世代に対する取組や、高齢者の就労・社会参加を通じた介護予防の取組を強化します。



- ・ ライフステージごとの特徴や課題等を踏まえた取組を、「健康くさつ21」に基づき今後も計画的に進めるとともに、その他の取組についても更に推進していく。
- ・ 働く世代については、誰もがゆとりを持って仕事と家庭の両立ができるよう長時間労働の是正等の働き方改革に取り組む。また、子育て中の方も多いことから、今年度開設した「子育て相談センター」の活用促進など、子育てしやすい環境整備を更に進めていく
- ・ 企業・団体の健幸宣言の取組も契機として、働く世代の健康づくりの取組を更に強化する。
- ・ 高齢者の就労促進や生きがいづくり、健康の維持向上等を通じた、介護予防に向けた取組を強化する。

# 《ひとの健幸づくり》重点的な取組①

## 各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進 【地域保健課・保険年金課】

(地域の特性に応じた健康づくり)

各まちづくり協議会と市が協働して、地域の特性を踏まえた健康づくりに取り組む仕組みづくりを進めます。

■各まちづくり協議会の健幸宣言（平成28年8月28日）

H 30	実績	○ 地区担当保健師が主に国民健康保険加入者の医療費や特定健診、市が実施するがん検診受診率などのデータを基に、小学校区ごとに生活習慣病に関する分析を行い、まちづくり協議会に情報提供しました。
	評価・課題	○ データを活用した学区ごとの健康状態の見える化を行い、まちづくり協議会に情報提供することで、健康づくりの推進に繋がりました。 ○ 国の「医療・介護データ等の解析基盤に関する有識者会議」で、国として医療データと介護データ等の連結解析に向けた提言が示されました。また、県の事業で同内容の事業が令和元年度から実施されることとなったことから、今後、国や県のデータ分析結果を待ち、より効果が高い保健事業の実施を検討していきたいと考えています。
R 1	計画	○ 地域の健康特性や課題を、まちづくり協議会など地域の関係者と共有を図りながら、地域の特性に応じた健康づくりの取組を進めていきます。

ち

＜健康意識の高揚＞

ちいきのみんなが健康への理解を深め、健康と幸せの輪を広げます！

い

＜生活習慣の改善＞

いつまでも健やかで幸せな生活が送れるよう生活習慣の改善に努めます！

き

＜生活習慣病等の発症予防＞

きっちり健康管理をおこない健康診断の大切さを訴えていきます！

か

＜栄養・食生活＞

カロリー等、バランスのとれた食生活を心がけます！

ら

＜身体活動・運動＞

らくらく体を動かして、地域の運動習慣を広めていきます！



# 《ひとの健幸づくり》重点的な取組②

## くさつ健幸ポイント制度 【健康増進課】

(全世代に共通した健康づくり)

けん診の受診や健康づくりの取組にインセンティブを付与し、健康づくりへの「きっかけ」、生活習慣改善のための「動機づけ」、意識やモチベーションを高める「継続効果」、「波及効果」を狙います。



H 30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健幸ポイント制度（紙版および健康推進アプリ「BIWA-TEKU」）に、1,512人の参加がありました。</li> <li>○ さらなる利用者増と利便性の向上、利用者の健康づくりへの寄与を目指し、アプリ改修を行いました（バイタルデータ入力機能の拡充とポイントランキング機能の拡充）。</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健幸ポイント制度は、健康づくりに取り組むきっかけづくりになり、アプリは働く世代の健康づくりのきっかけや継続性につながりました。</li> <li>○ 更なる利用者の増加を目指し、引き続き、行動変容の動機づけや意識の向上と継続につながるよう、健康づくりに取り組む人を増やすことが必要です。</li> </ul>
R 1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市や団体、企業等のイベントや「みんなでトーク」などの様々な事業を活用し、「BIWA-TEKU」の周知啓発を行い、健康づくりにつながりにくい30～40歳代の働く世代の健康づくりに取り組めます。</li> <li>○ 令和元年7月22日現在アプリ登録者数：17,061人（うち、草津市1,603人）</li> </ul>

# 《ひとの健幸づくり》重点的な取組③

## 地域包括ケアシステムの推進 【長寿いきがい課】

(支え合いのコミュニティづくり)

地域で安心して医療・介護サービスを受けることのできる基盤づくりとしての医療・介護連携の推進、関係機関と連携した認知症施策の推進を図るとともに、介護予防・生活支援サービスや介護サービスの充実を図ります。また、介護予防・日常生活支援総合事業においても、機能回復訓練等の高齢者本人へのアプローチだけではなく、いきいき百歳体操など要介護度等によって区別されない住民運営の通りの場の充実や、生活支援コーディネーターの配置を通じた地域づくりなど、高齢者本人を取り巻く環境づくりを進めていきます。

H 30	実績	○ 在宅医療と介護の連携の推進、認知症に関する正しい知識の普及・啓発等を行いました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多職種連携推進会議等を通じて、医療と介護の連携を進めていますが、今後、さらに在宅療養が必要となる高齢者の増加が見込まれることから、多職種の連携体制を強化し、医療と介護を一体的に提供できる体制を構築していく必要があります。</li> <li>○ 認知症施策について、計画的に取組を進めることができましたが、「認知症があっても安心して暮らせるまちの実現」に向け、引き続き、各施策を進めていく必要があります。</li> <li>○ 介護予防・生活支援サービス事業の円滑な移行を図ることができました。今後、移行の評価を行い、地域での生活が継続できるよう、必要な方に必要なサービスが適切に提供される環境づくりを図る必要があります。</li> <li>○ 各種事業を通じて、地域や団体におけるサロン活動や見守り活動の取組みは進みましたが、今後さらに各関係機関や団体、地域住民が連携して高齢者を地域で「見守り・見守られ」、「支え・支えられる」ネットワークづくりを進めていく必要があります。</li> <li>○ 各地域包括支援センターに新たに事務職員を配置したことで、専門職が相談業務や地域とのネットワークの構築等に専念して取り組むことができました。</li> </ul>
R 1	計画	○ 地域ケアネットワークの構築、助け合い・支え合い活動の充実等に関する取組を推進します。

## 高齢者の社会参加・生涯活躍社会の構築に向けた取組の推進 【健康福祉政策課・長寿いきがい課】

(ライフステージに応じた健康づくり)

生涯活躍社会の構築に向け、地域活動やボランティアへの参加、就労等、高齢者の様々な生きがいづくりや社会参加の仕組みについて、検討を進めます。

H 30	実績	○ 退職後の社会との関わりや生きがいづくりを目的とした、市内の社会参加メニューを紹介するリーフレットの活用、介護予防の取組への支援等を行いました。
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前年度作成したリーフレットを市内の公共施設へ設置したほか、国民健康保険の制度説明と運動教室をあわせたセミナー「健幸づくりセミナー」の参加者へ案内しました。今後も活用の輪を広げていく必要があります。</li> <li>○ 介護予防に取り組む団体や地域サロンへの活動支援、サポーターや脳活リーダーの養成により、高齢者の介護予防や自立、社会参加の促進につながりました。体操団体や地域サロン等、地域の身近で集える場は増えていますが、継続参加者や新規参加者の減少、男性参加者の少なさ、体操等活動へのマンネリ化意識といった団体からの声もあり、各団体の継続に対する支援も必要となります。</li> </ul>
R 1	計画	○ 高齢者の様々な生きがいづくりや社会参加の仕組みについて検討を進めるとともに、住民の介護予防への関心を高めるための普及啓発に努め、介護予防に効果のある活動に住民が主体的に取り組む継続実施できるよう支援を進めます。



## しごとの健幸づくり

産学公民が連携し、健康になれるまちづくりを進めます。

### 地域産業と連携した健康産業の活性化

#### ① ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援

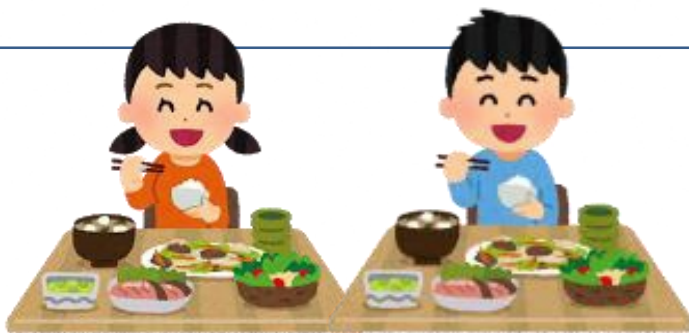
市の様々な観光資源や歴史遺産等を活かして、ヘルスツーリズムを含む健康産業の育成支援を検討します。

- ・ ヘルスケアビジネスを創出するため、まず市の課題やニーズを洗い出し、それらの解決につながるサービスを検討する。
- ・ 医療・介護機関等との連携を強化する。

#### ② 特産物を活かした健康な食等の推進

身近な農産物のPRを進め、地域産業の活性化や地産地消、野菜摂取量の増加を促す取組など、健康と産業の連携を進めます。

- ・ 草津産農水産物を市内で購入できる機会が限られているため、市民が草津産農水産物を手に入れやすい環境の整備や、消費者に分かりやすい情報提供を行う。
- ・ 積極的な野菜摂取の啓発等の取組を行う。





## しごとの健幸づくり

産学公民が連携し、健康になれるまちづくりを進めます。

### 大学・企業等との連携

#### ① 産学公民連携とその仕組みづくり

市内の団体や企業、大学とともに、産学公民連携による健幸都市づくりを進めます。

労働者の健康増進やワーク・ライフ・バランスの推進を図ります。

- ・ 市の特性を活かし、大学や企業・団体と連携して、効果的に健康づくりを推進していく。

#### ② 健康に関する情報提供

各種媒体を利用して積極的な広報活動を進め、様々な団体・企業等と連携して積極的に情報発信を行います。

- ・ 健康づくりは、日ごろからの意識づけが大切であることから、定期的・効果的な広報活動を行う。
- ・ 積極的に行動しないと情報が得られない状態ではなく、日常の何気ない場面で健康づくりを意識できるような環境づくりを行う。



# 《しごとの健幸づくり》重点的な取組①

## ヘルスツーリズムの開発 【商工観光労政課】

(ヘルスツーリズムを含むヘルスケアビジネスの育成支援)

東海道と中山道が合流・分岐する出会いのまちとして、自然環境や歴史遺産、地元食材や健康産業など、様々な地域資源の連携を含め、訪れることで健幸になるヘルスツーリズムの実施を検討します。



H 30	実績	○ 草津市観光物産協会を中心として、草津版ヘルスツーリズムの商品化に向けたモニターツアーを8回、ワークショップを2回実施し、着地型観光資源の掘り起こしに取り組みました。(参加人数:108人)
	評価・課題	○ モニターツアーの実施を重ね、健幸をテーマとした着地型観光資源の掘り起こしを実施することができました。モニターツアーに多数の市内業者が参画することで、旅行者と市内事業者が交流し、心身の健康を享受できる商品開発を図ることができました。今後は草津市観光物産協会が主体となり自走運営していくための体制を構築していく必要があります。
R 1	計画	○ 当事業の自走化を目指して、商品造成、広告宣伝、販売運営等を実施する中で、事業遂行に必要なノウハウを草津市観光物産協会において習得し、当協会主体の事業として継続できる仕組みを検討します。

## 草津ブランドの構築・PR 【農林水産課】

(特産物を活かした健康な食等の推進)

草津ブランドを地域で育て、地産地消につなげることで地域産業の活性化や草津市のイメージアップを図り、全国に誇れるブランドへと育てていきます。

H 30	実績	○ 草津野菜マルシェ(約1,500人参加)等の開催、草津ブランド・草津産農産物のPRおよびPR支援等、SNSや貸出資材を利用した草津産農産物のPR・地産地消の啓発、草津あおばなフェスタの開催(約1,300人参加)、あおばな啓発活動、青花紙保存部会の運営支援、道の駅「草津」で、草津ホンモロコの出荷販売(合計55kg)を通じたPRを行いました。
	評価・課題	○ 各種イベントでは試食などを通して、効果的にPRすることができました。 ○ SNSを使って、これまでとは異なったPRを試みました。 ○ PR活動の結果、各種メディアに取り上げられ、草津ブランドについて多くの方に発信することができました。 ○ 草津産野菜のPRと併せて、地産地消に対する市民の意識を高める必要があります。
R1	計画	○ 草津ブランドの構築・PRに向け、新規のブランド認証となる工芸品・名産品と既存の農産物のブランドを併せて、草津ブランド市の開催等を行います。



# 《しごとの健幸づくり》重点的な取組②

## 企業版健幸宣言の推進と企業連携 【健康福祉政策課】

(産学公民連携とその仕組みづくり)

草津市が一丸となって健幸都市づくりに向けた取組を進めるため、健幸都市宣言に賛同いただける企業や団体、また健幸づくりの取組に関する宣言を行っていただける企業や団体の募集を継続するとともに、当該企業や団体の優れた取組を公表・PRする機会を設けます。

H 30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちづくり協議会の健幸宣言 14学区 健幸宣言事業所 44団体 健幸宣言賛同事業所 121団体 合計179団体(前年比63増)</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な方法で募集をし、多くの事業所に賛同してもらうことができました。</li> <li>○ 賛同事業所をどのように健幸都市づくりに巻き込んでいくかが課題です。</li> </ul>
R 1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権啓発の事業所訪問の際に募集を行い、引き続き賛同事業所の増加を目指します。合計192団体(7月31日現在、13団体増)</li> <li>○ 健幸イベントにおいて賛同事業所の紹介を行うとともに、賛同事業所へ積極的に健幸都市づくりに関する情報提供を行います。</li> </ul>

## アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用

【草津未来研究所・健康福祉政策課】 (産学公民連携とその仕組みづくり)

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)は、産学公民が対等な立場で、草津の未来について気軽に自由に語り合う場所です。交流・学習会や調査研究、社会実験の実施により、未来のまちのイメージを創造し、新たな活動につなげていきます。

H30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 健幸都市の実現に向け、様々な切り口でテーマを設定し、アーバンデザインスクールや未来創造セミナー等を計22回実施し、延べ453名の方に参加いただきました。</li> <li>○ 社会実験事前調査事業では、健幸都市づくりに関係するテーマを設定し、包括協定締結大学を対象に調査を募集し、2大学(立命館大学、滋賀医科大学)とともに計3プロジェクトを実施しました。</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産学公民連携の促進を通じて、各種事業で健幸都市づくりについて考えを深めてもらうことができ、住む人も訪れる人も健幸になれるまちとなるために必要なことを参加者同士で共有してもらえました。しかし、セミナー等の参加者の広がりをもたせるため、新しい発想を取り入れた事業や産学公民をつなぐUDCBKの強みを生かした取組をさらに展開していく必要があります。</li> </ul>
R 1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、健幸都市の実現に向け、様々な切り口でテーマを設定し、アーバンデザインスクールやアーバンデザインセミナー等を実施します。</li> <li>○ 社会実験準備事業等では、健幸都市づくりに関係するテーマを設定し、包括協定締結大学を対象に調査を募集し、審査を経て委託します。</li> </ul>

# 《しごとの健幸づくり》重点的な取組③

## 健幸都市くさつの啓発 【健康福祉政策課】

(健康に関する情報提供)

様々な機会を通して「健幸都市くさつ」の普及啓発を進めます。

H 30	実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 草津川跡地公園にて健幸イベントを開催しました。(4月7日、7月21日、10月20日、11月10日、3月23日)</li> <li>○ 新しくなったクリーンセンターでの食品ロス削減の講座やイベント等を通じて、「3010運動+」を中心とした食品ロス削減を啓発することができました。また、事業所における取組を推進するため、事業所訪問による啓発を行いました。(訪問事業所数72件)</li> </ul>
	評価・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市民に対して、イベント等を通じて啓発を行い、理解を深めてもらうことができました。また、各事業所にて、食堂や掲示板等へチラシを設置して啓発していただくことができ、3010運動+に関する認知度が高まりました。</li> <li>○ 健幸イベントにおいては、親子連れや同時開催の健幸ウオーク参加者を中心に健康づくりの啓発に一定効果はあったものの、「健幸」を前面に押し出したイベントとしたことや2年目の開催で目新しさが欠如したことにより、健康に無関心な層を中心として集客に課題が残りました。</li> </ul>
R1	計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業所訪問やごみ問題を考える草津市民会議との連携による3010運動+の展開、草津川跡地公園での健幸イベントの開催、ピンバッチや横断幕等による啓発等を行います。</li> </ul>



誰もが生きがいをもち、健やかで幸せに暮らし続けられる健幸都市の実現に向け、行政や市民、地域、大学、企業、団体などあらゆる主体が「健幸」を**“我が事”**として意識し、各主体の連携を深め、様々な施策を**“丸ごと”**で進めていくことができるよう、R元年度は、「まち」「ひと」「しごと」についてそれぞれ主に以下の取組を総合的に実施していきます。

## まちの健幸づくり

### ①健幸フェアの開催

草津川跡地公園の賑わい創出と健幸づくりの発信を図るため、健幸フェアを引き続き開催し、より効率的・効果的な開催方法を検討。

### ②楽しく歩ける路面標示の設置

まちなかを楽しく歩けるよう、主要施設等の目的地までの距離や消費カロリー等を示す路面標示を設置。R元年度は路面標示デザイン案・全体配置計画作成案、R2年度に事業実施。

### ③健幸づくり推進拠点の整備

健康情報や自らの健康状態について知りつつ、地域住民等と交流を図りながら自らの健幸づくりを進めていくことができる拠点を整備。R元年度は①市役所②ロクハ荘・なごみの郷にて展開。

## ひとの健幸づくり

### ①「草津・たび丸kitchen」を活用した食育推進

野菜の摂取量の増加を目指し、外部委託等による草津市産の野菜等を活用したレシピの拡充や、「草津・たび丸kitchen」を活用した食育推進の啓発を展開。

### ②フレイル予防・認知症施策の推進

フレイル予防の観点から、新たに介護予防拠点等での健康教室や地域サロン等への専門職種の派遣を実施。また、認知症施策の推進のための条例の制定の検討を開始。

### ③地域共生社会に向けた取組

地域住民等が主体的に地域課題の解決を試みることができる地域のきずなづくり、支え合いの仕組みの構築に向け、市民等の意識啓発のための地域共生社会に関するセミナー等を実施。

## しごとの健幸づくり

### ①草津市版ヘルスツーリズムの実施

本市特有の地域資源の掘り起こしを行い、「健幸」をテーマにした本市独自のヘルスツーリズムとして体験型旅行商品の開発を行い、併せて自走化に向けた検討を実施。

### ②健康経営の普及促進

健康経営を実践している企業・法人を顕彰する「健康経営優良法人認定制度」の認定を受ける企業・法人を増やすため、市内の中小企業等に対し、健康経営の導入を啓発。

### ③健幸都市くさつの広報・啓発

ピンバッジの作成、「えふえむ草津」での専門番組開設、徒歩移動を選んでしまうインパクトのあるポスター・横断幕等の駅前やデッキ等への掲示等、健幸都市くさつの広報・啓発を徹底。